

中学校学習指導要領の変遷に基づいた陸上競技の学習指導のあり方に関する一考察

A consideration about the teaching of track and field based on the transition of junior high school guidelines

for the course of study

1K09A062-7 梶 将徳

指導教員 主査 吉永 武史先生 副査 深見 英一郎先生

【序章】

学習指導要領は常に社会状況の変化に影響を受けてきた。それに伴い、授業づくりや学習指導のあり方も変容してきたと考えた私は、各時代における体育の特徴と陸上競技の授業づくりがどのように取り組まれてきたかということ明らかにし、これからの陸上競技の授業づくりに向けての示唆を得たいと考えた。現在では、子どもたちの体育嫌いが増加傾向にあり、なかでも「陸上競技が嫌い」という声が少なくないと言われる。

そこで本研究では、上記の問題の解決に向けて、中学校学習指導要領の変遷に基づいた陸上競技の学習指導のあり方について検討することを目的とする。具体的には、中学校学習指導要領（文部科学省,2008）に示された陸上競技領域の目標や内容、ならびに陸上競技の授業づくりがどのように取り組まれてきたのかを時代ごとに分析し、これからの陸上競技の授業構想を提案する。時代区分については、友添（2010）によって示された変遷区分を参考に、第Ⅰ期「身体的目標を重視した体育」、第Ⅱ期「技能習得を重視した体育」、第Ⅲ期「楽しさを保証する体育」の3つに分ける。

【第1章】

第1章では、各時代における保健体育科の目標ならびに陸上競技の内容について分析を行った。「身体的目標」が重視された時代では、取り扱う種目が示されたのみで、一般的な考え方を示されたものの、学習指導については不明確であった。「技能習得」を目指した時代では、国際舞台における競技スポーツの成績不振などから技能向上や体力づくりが叫ばれた結果、国民世論を喚起し、体育の目標に記載されるまでになった。「運動の楽しさ」を保証するようになった時代では、生涯スポーツのつながりを意識し、運動が内包している楽しさや喜びを体験的に学ばせようとする運動・スポーツの教育の理念が大きく反映される形がみられた。

【第2章】

第2章では、各時代の陸上競技の授業づくりについての分析を行った。「身体的目標」が重視された時代では、身

体的経験をできる場が多く設定される一方で、下位教材の設定はなく、ダッシュの繰り返しなど、単調な授業が繰り返されていた。「習得」を目指した時代では、系統的な指導が意識される一方で、体力づくりが指導の中心として考えられた（佐伯,1968,p.25）。その結果、授業はトレーニング要素の濃いものとなっていた。「運動の楽しさ」を保証する時代では、個別化学習によって生徒の能力や欲求に基づいた学習をしていく中で、教師はその学習の指導や助言を通して意味のある方向へ伸ばしていく、生徒を軸として展開している学習が行われていた。

【第3章】

これからの陸上競技の授業構想を考えるために、第3章では新しい学習指導要領について検討した。新しい学習指導要領では、陸上競技のねらいは運動の楽しさから各種特有の技能を身に付けることへ変化し、より目標と内容の一貫性も示された。また授業づくりについては、種目特有の技能を学習内容の中心に据えた教材が設定され、種目の魅力を十分に味わえる授業が行われるようになった。その結果、「陸上競技が好きになった」生徒の声も聞かれるようになった。評価に関しては、「指導と評価の一体化」が目指され、指導内容に対応した評価観点が明確に示され、学習カードなどの活用が学習指導を行う上でも、評価を行う上でも重要になってくることが確認された。

【結章】

学習指導要領の改訂は社会状況の変化に大きく反映されてきた。それに伴い、陸上競技の授業づくりも変化してきた。これらの変遷を分析した結果より、「学習内容の明確化」、「勝敗の未確認性」、「個人運動の集団化」、「生徒同士の協力」の4点が陸上競技の授業を構想する際の手がかりになると結論づけた。しかし、本研究はあくまでも理論研究であり、今後は学習指導プログラムの有効性を検証する研究が今後の課題である。